

平成23年3月3日

町長施政方針

日の出町

は　じ　め　に

平成23年第1回日の出町議会定例会の開会にあたり、私の日の出町政に対する施政方針等について申し述べ、町議会議員各位、並びに町民の皆様の、ご理解、ご協力とご支援をお願い申し上げたいと存じます。

平成23年の幕開けを告げる元旦の初日の出は、長引くデフレ、経済の停滞や社会保障の先行き不安など、最近の閉塞感、不透明感を吹き飛ばすような、澄んだ^{こうごう}神々しい輝きを見せてくれました。

私は、今年こそ、年頭の^{あさひ}旭日のように、バブル崩壊後の「失われた20年」に歯止めをかけ、将来に向かってこの国を今一度元気ある国にする、スタートの年になって欲しいと念願しております。

さて、私が、昨年4月16日に第5代日の出町長として町政を引き受けてから、早や1年近くが経ちます。

この間、わが国においては、鳩山首相から菅総理へと代わりましたが、政策的には民主党がマニフェスト（政権公約）で約束したことはかけ離れた方向に進みつつある、或いは、将来を見通すような政策は出てこず、問題を先送りしているとしか言いようがない現

在の政府の行き方に、戸惑いを感じている国民も多いのではないで
しょうか。

その原因は、政治主導と言いながら役人と組織を使いこなせない、
或いは、外交問題をはじめとする政策に幾多の迷走があり、また、
財源不足からマニフェストの行き詰まりが明らかになるなど、政治、
行政両面にわたる政権の未熟さにあると言っているののかも知れませ
ん。

年金・医療・介護といった社会保障改革や、その財源と目される
消費税論議など、国民に直接関係し、その痛みを伴う中長期にわた
る政策に対しても、目先の損得のみに目が向き、本格的な制度検討
に入るための素案を未だに示すことができないなど、明日の世代を
語らない政治の勘定書きに対して、未来の憤りの声が聞こえて来そ
うでなりません。

経済では、急速な円高、日米欧の減速と新興国の成長、国内のエ
コカー補助金等の政策効果の息切れが重なり、景気は足踏みし、所
得増や雇用の改善も遅れております。

平成10年から始まった現在のデフレは、民間部門の活力を衰え
させ、経済活性化の糸口をつかむのを難しくさせており、少子高齢

化に対応する成長戦略を抜本的に実施しないと、停滞と縮小は更に続く恐れがあると言えます。

失われた20年に続く、失われた10年にこの日本を踏み込ませてはなりません。多角的な視点で成長を高めてこそ、初めて人々の将来への安心感が生まれるということを忘れてはなりません。

日 の 出 町 の 行 政 に つ い て

さて、地方自治は、本来、暮らしのための行政サービスを安定的に提供する、いわば地味な役回りであり、そこでは政策が大きくぶれない仕組みが求められ、継続的に取り組む政策を練り上げることが最も重要であります。

私は、このような考えのもとに日の出町政を引き継ぎ、今日までの約1年間、さまざまな政策を継承し発展させながら、また一方で、新たな^{いぶき}息吹を吹き込みながら、町政を進めてまいりました。

所信表明で申し上げたように、歴代の町長が引き継ぎ築き上げてきた、歴史と伝統に支えられた町政を踏まえて、また、昨年6月に、町議会のご承認をいただいて策定した**第4次日の出町長期総合計画「みんなでつくろう日の出町！」**に基づいて、活気あふれる、心身

ともに豊かな、輝かしい日の出町づくりに全力を傾注してまいります。

具体的には、「躍進 ひので！ニュー5大作戦」を柱に、福祉、安全・安心、教育と産業振興等に重点を置いた、バランスのとれた町政を推進してまいります。

平成23年度においては、「躍進 ひので！ニュー5大作戦」、即ち、

第一 日本一の福祉の町づくり —— 子育て支援の充実とお年寄りにやさしい町づくり

第二 日の出A（安全）・A（安心）大作戦の展開

第三 豊かで創造性に富んだ児童・生徒を育成するための、教育の充実による人づくり

第四 元気のある活気に満ちた商工観光業・農林業の振興

第五 総合文化体育センター並びに野外スポーツ施設の設置推進

という五本柱を中心に、次のような施策を実施してまいります。

「躍進 ひので！ニュー5大作戦」の展開について

1. 日本一の福祉の町づくり —— 子育て支援の充実とお年寄

りにやさしい町づくりについて

先ず、第一の柱は、日本一の福祉の町づくりについてであります。

日の出町は、国や全国の自治体に先駆けて、「日の出町発の少子化対策！——次世代育成プログラム」を策定し、18年度より、0歳から15歳までのこどもを対象に、一人月1万円の次世代育成クーポンの支給と、次世代育成住宅の提供を開始し、翌19年度から、医療費の無料化などを実施してまいりました。

また、21年度からは、75歳以上のお年寄りの医療費を無料化するとともに、健康増進、健康づくりに重点を置く各種施策を進めてまいりました。

この結果、他の施策と相まって、減少を辿っていた日の出町の人口が増加に転じ、中でも幼児と壮年層が目立って増えるなど、町に活気が戻ってまいりました。

(子育て支援の充実)

23年度においては、これまでの実績を踏まえて、次のような子育て支援策を実施してまいります。

第一に、昨年、第4回町議会定例会においてご承認いただきました、中学卒業から18歳までの青少年を対象とする、育成支援金の

支給と医療費の無料化を、本年4月から開始いたします。

第二に、子育て支援の環境づくりについてでございます。

日の出町の子育て支援については、次世代育成プログラムにより土台は一応整っていると考えますが、この基礎を踏まえて、現在、「子育て支援懇談会」において、子育ての環境づくりについてご協議いただいております。町としてはこの懇談会のご報告を待って、子育て支援の環境づくり施策を推進してまいります。

第三に、保育園の待機児対策についてでございますが、日の出町におきましても保育園の入園希望者は年々増加し、全員を受け入れることが難しくなっております。

町といたしましては、できるだけ希望者のご要望に沿うべく、保育園のご協力をいただき、入園児の受け入れ増や建替えによる入園定員の増などを図るとともに、保育ママの希望者を募集するなど、さまざまな努力を重ねてまいりました。23年度の保育所関係経費は7億7百万円に達する見込みでございますが、それでも待機児をゼロにすることはできず、また、即効性のある対応はなかなか見出せないのが現状でございます。

引き続き保育園等と協議し、また、日の出町の状況に合致した、

待機児対策について検討してまいります。

第四に、旧役場跡地に計画している「(仮称) ひので森林こども大久野公園」についてでございますが、近隣の皆さんのご要望等を踏まえた設計ができあがりましたので、今年末までには完成するよう、整備工事を進めてまいります。

(お年寄りにやさしい町づくりについて)

次に、23年度に実施する、お年寄りに係る施策について申し上げます。

第一に、平成21年度から始まった75歳以上の高齢者の医療費の無料化は、2年を経過し順調に推移しておりますが、23年度も医療費の無料化をはじめ、人間ドック受診料の助成、一人暮らし高齢者セーフティーネット、寝たきり高齢者等支援手当をはじめとする長寿化対策を着実に実施してまいります。

第二に、22年度から始めた健康推進事業、「元気の種まき」～みんなでのめっこく～の事業につきましては、高齢者はもちろんのこと、年齢を問わず誰でも参加でき、みんなで健康推進を図る事業として好評を博しております。

23年度も、ウォーキング、講演会、各種講座、料理教室などを

実施し、健康推進パンフレットを全戸に配布するほか、健康づくり推進員による「けんこう1万歩事業」を展開して、町民の皆さんの健康増進を図ってまいります。

第三に、本宿老人福祉センターと大久野健康いきいきセンターに続いて、23年度は、平井・生涯青春ふれあい総合福祉センターに太陽光発電システムを設置し、環境にやさしい福祉センターづくりを推進してまいります。

第四に、24年度から3年間を計画期間とする、高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画を策定し、介護保険事業の充実を図ってまいります。

第五に、坊平多目的ひろばに水洗トイレを設置し、ひろばを利用する方々や、散策の人たちなどにご使用いただきます。

(がん医療費等について)

次は、がん医療費の無料化等についてございます。

がんについては、日本人の2人に1人は、生涯のいつか、何らかのがんに罹^{かか}ると言われております。改めて申し上げるまでもなく、がんをはじめとする病気には罹^{かか}らないのが一番でございますが、定期的に検診を受け、病気が発見された時は、早期治療、早期回復に

努めていただくのが、自分自身の健康な体を護っていくための原点であり、最も大切なことだと、私は思っております。

そこで23年度は、次の事業を推進してまいります。

第一に、16歳から75歳未満の方を対象とするがん医療費の無料化は、昨年12月にスタートし、問題もなく現在に至っておりますが、23年度は年間を通して運用する初めての年になりますので、制度がスムーズに実施されるよう、なお一層の努力をしてまいります。

第二に、町民の皆様には、町などが実施する、がんをはじめとする各種検診を、ぜひ受診していただきたいと思っております。

町においても、町民の皆様が、がんなどに^{かか}っていないことを検診により確認し、安心して日常生活をお送りいただくため、或いは、^{やまい}病が発見された場合には、早期治療、早期回復に努めていただくため、健康診査や多様な検診を実施するとともに、受診することの大切さをさまざまな方法により周知してまいります。

第三に、ヒブワクチン等の接種についてでございますが、

- ① 21年度から始めたヒブワクチンの接種につきましては、引き続き2カ月の新生児から4歳児までを対象に実施し、

- ② 22年度から始めた子宮頸がんワクチンの接種は、23年度から、中学1年生から高校1年生（16歳相当）までに、対象者を拡大して実施することとし、
- ③ 新たに23年度から、小児用肺炎球菌の接種を、2カ月の新生児から4歳児を対象に、

いずれも全額公費負担で実施することといたします。

2. ひのでA（安全）・A（安心）大作戦の展開について

次に、第二の柱の、ひのでA（安全）・A（安心）大作戦の展開について申し上げます。

安全・安心は、私たちが生活し、働き、学び、或いは、憩う上で、の基本的な条件の一つと言えます。

第4次日の出町長期総合計画「みんなでつくろう 日の出町！」

を策定するために実施したアンケート調査において、町民の皆さんが今後のまちづくりにおいて望んでいることの第1位は、「安全・安心のまち」となっております。

町においては、引き続き皆さんが安心して暮らし、活動できる日の出町とするため、23年度において、次の施策を実施してまいります。

第一に、地震・台風等の災害対策に万全を期すため、土砂災害警戒区域の指定等に伴い地域防災計画を改定し、予防・応急・復旧対策に万全を期してまいります。

また、細尾地内の急傾斜地崩壊防止対策につきましては、引き続き整備促進を図るよう東京都に要請してまいります。

第二に、緊急時にすばやい対応を図るため、防災行政無線を更新するとともに、消防機能の充実を図るため、小型動力ポンプを購入いたします。また、消防団詰所の建替えに向けた動きを加速してまいります。

第三に、家具転倒防止器具の助成と、木造住宅耐震診断及び耐震改修の助成を、引き続き実施してまいります。なお、21年度から行っております家具転倒防止器具の助成事業は、23年度をもって終了する予定となっております。

第四に、子どもの安全を図るため、23年度にテストケースとして、防犯カメラを設置したいと考えております。また、安全・安心パトロール、小中学校警備、児童用防犯ブザーの貸与や、下校用車両の運行等も引き続き行ってまいります。

第五に、町民の皆さんの安全な日常生活に欠くことのできない、

道路整備についてでございますが、23年度は、

- ① 補助道第7号線（川北通り）と三吉野宿上6号線改良工事の用地買収と支障物件の補償を進め、
- ② 補助道第10号線の御殿橋架け替え工事を続行し、
- ③ 幸神19号線の道路改良工事と、日の出団地26号線及び三吉野工業団地2号線の舗装打換工事等を実施するほか、
- ④ 新たに、三吉野宿上21号線と岩井4号線の道路改良工事、また、補助道第10号線（羽生通り）と三吉野下平井41号線（パークタウン）の舗装打換工事について、測量・設計に着手いたします。また、舗装大作戦その他の小工事についても引き続き実施してまいります。

第六に、梅ヶ谷峠～肝要間のトンネルにつきましては、昨年も町議会新政会とともに東京都に要請するなど、実現に向けての働きかけを強めております。

都においては、22年度に実施した環境調査と地権者調査に続き、23年度は1千万円の予算で坑口の検討等を行うと聞いておりますが、都道184号線は土砂災害等が発生すると交通が途絶し、肝要・松尾地区に住む180所帯、500名の住民が孤立することになり

ますので、今後とも、トンネルの実現に向けて東京都に強力に要請してまいります。

3. 豊かな創造性に富んだ児童・生徒を育成するための、教育の充実による人づくり

第三の柱は、豊かな想像性に富んだ児童・生徒を育成するための、教育の充実による人づくりであります。

教育につきましては、新学習指導要領が、小学校では23年度から完全実施され、中学校も24年度から実施になります。また、文部科学省は、新学習指導要領の円滑な実施と、教員が子どもと向き合う時間の確保による質の高い教育の実現を目指し、「教職員定数改善計画案」を発表しましたが、財源の問題から、23年度は小学校1年生に限り35人学級を実施することとなりました。

私は、日の出町という恵まれた自然環境の中で、豊かな人間性を育むという基本理念に基づき、教育環境の改善を図るため、23年度は、次の施策を実施してまいります。

第一に、昨年夏の猛暑を例に挙げるまでもなく、教室内の室温上昇は、児童・生徒及び教員の集中力を明らかに低下させていることから、23年度において、小・中学校の全ての普通教室にクーラー

を設置することといたします。なお、特別教室についても24年度以降、順次整備してまいります。

第二に、支援教育を充実するため、新たに平井中学校に通級学級を開設し、個々の教育的ニーズを把握するとともに、その持てる力を高め、適切な指導及び必要な支援を行えるよう措置いたします。

第三に、若手教員の指導育成のため、教員アドバイザー制度を設けるとともに、ICT（情報通信技術）のより一層の活用を図るため、教員の研鑽の機会を設けることといたします。

第四に、給食センターの耐震強度が不足していることから、23年度において耐震補強・改修工事を実施いたします。

第五に、平成25年に日の出町で開催される東京国体の女子サッカー競技のために、23年度においては引き続き諸般の準備を進め、平成24年度に国体準備委員会または実行委員会を組織したいと考えております。

以上のほか、学力向上や特色ある学校づくりは、これまでどおり進めるとともに、学校施設等につきましても、計画的に、或いは、緊急度に応じて整備・補修を行ってまいります。

また、ひので町民大学についても、町民の皆さんのご要望に沿っ

た多種多様な講座・教室を実施するとともに、スポーツにつきましても、高齢者をはじめとする町民一人ひとりが気軽にスポーツを楽しむことができるよう、健康増進事業と連携をとりながら、各種施策の充実と推進に努めてまいります。

4. 元気ある活気に満ちた商工観光業と農林業の振興

第四の柱は、元気ある活気に満ちた商工観光業と農林業の振興でございます。

町が目ざしている活気あふれる日の出町を実現するためには、町民の皆さんはもとより、町の産業である商業、工業、観光業と、農業、林業が、かつての元気を取り戻すことが不可欠であります。

そのために、23年度は、次の事業を実施してまいります。

第一に、21年度から検討を開始いたしました「(仮称)日の出町観光振興計画」につきましては、昨年度に実施した資源発掘調査と観光認知度調査に基づき、22年度は計画づくりにとりかかっており、3月末には、エコツーリズム等を基本的な理念とする計画ができあがると報告を受けております。

今後、この計画に基づき年次計画を立て事業化を図ってまいります。観光振興は、日の出町の町づくりにとって最重点事項の一つ

であることから、23年度はその先鞭として、町民の方や各種団体等から町おこし事業を募集して、これに助成する「観光まちづくり事業」を実施することといたします。

第二に、これも22年度末に計画ができあがる予定の商工業振興計画でございますが、日の出町の商工業振興の現状や課題を明らかにし、具体的な振興策が提示されると聞いておりますので、商工会等と協議しながら、逐次、振興策の実現を図ってまいります。

第三に、平井・川北地区に構想しております「(仮称)野鳥の森・こども自然公園」についてでございますが、この公園は、町づくりや観光振興の枢要な拠点になると見込まれることから、新年度に設置構想委員会を設置して、公園造りの具体的な検討を始めるとともに、23年度も、3年計画の最終となる景観再生事業を続行いたします。

また、大久野地域の振興の拠点となる勝峰山公園の整備についても、引き続き推進してまいります。

第四に、つるつる温泉と肝要の里でございますが、両施設とも3年前から商工会を指定管理者にして、効率的な運営をお願いしてきたところでございます。おかげさまで、温泉につきましては、利

用者の減少する中、今年度は黒字に転換できる見込みとなりました。肝要の里につきましても、さまざまな問題がありますが、赤字幅は大きく減少いたしましたので、商工会からこの辺で委託を返上したいとの話がございました。

検討の結果、温泉は、もともと町民の福祉と健康の増進を図る施設であることから、純然たる民間委託には馴染み難いと考え、平成23年4月から、肝要の里ともども、町の第三セクターである日の出町サービス総合センターに委託することとし、今定例会に議案を提出しておりますので、ご承認をお願い申し上げます。

なお、今後、同種施設の運営についての実績を有し、両施設の利用を促進するなど、指定管理者として委託するにふさわしい運営体が参入の意向を示した場合には、公募等についても検討してまいります。

第五に、農業についてでございますが、近年、鳥獣による被害が目立っておりますので、町で電気柵、捕獲かごを購入して、農家に貸し出すとともに、農村リフレッシュ再生事業を実施するほか、坊平玉の内地区の農業集落道整備工事を続行いたします。

第六に、林業関係でございますが、勝峰山林道と矢越沢林道の開

設工事等を続行するとともに、観光振興計画に基づき、東京近郊に立地するという条件を活かして、森林浴を楽しみながらウォーキングなどを行う場として林道の活用を図ってまいります。

5. 総合文化体育センター並びに野外スポーツ施設の設置推進

第五の柱は、総合文化体育センター並びに野外スポーツ施設の設置推進についてでございます。

町においてはかねてより、総合文化体育センターと野外スポーツ施設の設置を進めるための第一弾として、平成25年に行われる国体の、女子サッカー場を整備する旨、申し上げてまいりました。

この女子サッカー場においては、平成25年9月30日に1回戦3試合と、10月1日に準々決勝2試合が行われることが決定いたしましたので、東京都及び東京たま広域資源循環組合と施設整備等についての協議を詰め、遺漏のないよう準備を進めてまいりますが、23年度には、平井中学校前の補助道第19号線からサッカー場に至るアクセス路を整備するための、測量・設計を実施する予定でございます。

また、総合文化体育センターと野外スポーツ施設については、平成11年に取りまとめた「スポーツと文化の森整備基本構想」を基

本として、更に施設・設備や、開場後の運営のあり方・管理方法等についても検討を加えるため、23年度に所要の予算を組んでおります。

なお、二ツ塚処分場及びエコセメント化施設につきましては、昨年、多摩川清掃組合による廃蛍光管等の不適正処理問題が発生しましたが、今後、町議会及び直接の地元の第22自治会対策委員会等とともに、循環組合と多摩川衛生組合の再発防止施策を検証し、安全な処分場として運営されるよう見守ってまいります。

以上、「**躍進 ひので！ニュー5大作戦**」の主要事業について申し上げましたが、ただいま申し上げなかった諸々の事業につきましても、住民サービスを低下させないことを前提に、従来どおり推進を図ってまいります。

なお、各事業の具体的な項目・内容等につきましては、別添の「平成23年度日の出町各課主要事業」をご覧くださいと存じます。

平成23年度の予算案について

次に、平成23年度の予算案について申し上げます。

(国の予算案について)

先ず、国の予算案でございますが、民主党政権になって初めての本格的な予算案は、新成長戦略と雇用対策に力点を置いたとしておりますが、マニフェストに縛られ、消費税引き上げ議論も封印したため、成長につながる政策の効果には疑問符が付き、また、今回限りがずらりと並び、財政健全化にも程遠い、未来がかすむと言ってもいい予算となりました。

これでは、日本をどういう方向に持っていくのかという、国づくりの哲学や理念が見られない予算であると言わざるを得ず、信念の裏打ちのない政策には説得力がないとしか言いようがありません。

政策経費である一般会計の総額は、平成22年度当初予算と比べて微増の9兆2千4億円となり、二年続けて当初予算ベースで新規国債の発行額が税収を上回り、また、初めて社会保障関係費が歳出総額の30%を超えました。

アメリカの第3代大統領のトーマス・ジェファーソンは、「子孫に借金を残すようなやり方は詐欺と同じだ」と言っておりますが、将来世代への負担の付け回しが加速した予算であることは間違いないと感じております。

地方交付税につきましては、一般会計ベースでは5年ぶりに減額となりましたが、交付税の特別会計にある繰越金と余剰金を活用して、自治体に配分する額は5千億円増えて、17兆4千億円となりました。

(東京都の予算案について)

次に、東京都の23年度予算案でございますが、東京都の予算は、「厳しい環境が続く中であっても都政の使命を確実に果たし、中長期的に施策を支え得る財政基盤を堅持しながら、東京の新たな活力と成長へ結びつける予算」と位置づけて編成されました。

こうしてまとめられた都の予算案は、一般会計予算は、前年度比で0.4%減の6兆2,360億円となり、このうち政策的経費である一般歳出は1%減の4兆5,839億円で、都市インフラ整備の公共事業と、福祉・雇用などの暮らしに重点的に取り組む内容になっております。

また、市町村への総合交付金は、前年度に比べて13億円増の、448億円となっております。

(日の出町の予算案について)

次に、日の出町の予算案について申し上げます。

(予算編成の基本方針について)

日の出町の平成23年度予算編成は、

第一に、昨年6月に決定した**第四次日の出町長期総合計画「みんなでつくろう 日の出町！」**の基本目標である**「安心・躍進・自立のまち」**の実現に向け、**「躍進 ひので！ニュー5大作戦」**を柱とした各種事務事業を着実に推進すること

第二に、厳しい税収の状況や、流動的で不透明な国の動向もあって、財源確保が極めて難しい状況にあることから、事務事業全般にわたり徹底した見直しと一層の効率化が不可欠なこと

この二点を基本方針として取り組みました。

この方針に基づく23年度の予算編成は、個人を中心とした税収の落ち込みが厳しいものでしたが、これまで実施してきたイオンモール日の出の誘致、少子化対策や高齢者対策などの政策効果が税収面で効果を^{あらわ}顕し、また、東京都の総合交付金や国・都の補助金等の財源確保に努めた結果、基本方針どおりの予算を編成することができました。

(財政規模等について)

こうして編成した平成23年度の一般会計予算案は、前年度当初予算に比べて1%近く増の、86億3千万円となり、日の出の春(8)に向(6)かう皆(3)んなの予算となりました。

歳入面では、根幹をなす町税は、昨年度比で、個人の住民税が約11%のマイナス、額にして1億円減と大きく落ち込みましたが、地方交付税や国庫支出金、都の総合交付金などを確保し、町税のマイナスを補うことができました。

歳出面では、子ども・青少年や高齢者対策、安全・安心のための施策、小中学校の冷房化を含めた教育環境整備や、産業振興などに重点的に対応したほか、行政サービスの確保・向上に努めたところでございます。

この一般会計に国民健康保険特別会計など4つの特別会計を合算した予算の総額は、125億6千6百万円となり、前年度を1.7%上回る予算を計上することができました。

なお、一般会計をはじめ各特別会計の内容等につきましては、別冊の議案書並びに説明書等をご参照いただきたいと思います。

ただいま申し上げた施政方針を具体化するため、本定例会に条例

案6件、予算案9件、その他案5件、合計20件の議案を提出しておりますので、よろしくご審議くださいますようお願い申し上げます。

結 び に

さて、私が町政を担ったこの1年近くを振り返りますと、町の事務事業は順調に進捗しており、「安心・躍進・自立のまち」に向けて確かな足跡^{そくせき}を刻んでおりますが、他方で、現在のわが国を展望すると、円高にデフレ、財政危機、普天間や日中関係等の外交問題、更には、社会保障改革の先送り等々が重なり、危機感、閉塞感が日本を覆っていると言えます。

文化功労者で小説家の塩野七生^{しおのななみ}氏は、「危機の打開に妙薬はない。やることよりやりつづけることが重要だ」（「日本人へ リーダー編」）と言っておりますが、まさにこの言葉のとおり、国においては目先のことではなく、中長期的な展望に立った政策が求められており、町政においても、目標を掲げ、地道^{じみち}に努力し続けていくことが必要不可欠であると確信しております。

そのために、私は、町議会や広く町民の皆さんのご意見を伺い、

特に、「^{じちゅう}耳中常に耳に逆らうのを聞く」という中国の格言（洪自誠「采根譚」）にあるように、苦言に耳を傾ける心がけを忘れず、^{せんりよまど}千慮惑うことなし —— 熟慮の末に下した判断は何としてもやり遂げると
いう心意気で町政を^{つかさど}司り、^{せんだつ}先達がこれまで営々と築き上げてきた日の出町を、更に活気あふれる、心身ともに豊かな、輝かしい町とするため、議員各位、町民の皆さん及び職員と力を合わせて、今後とも努力して行く覚悟でございます。

また、私の部下でありパートナーである町の職員には、日々の仕事を進めていく上で、常に課題を見つけて自ら考える力を身につけること、課題に対してどう知恵をしぼるか、頭の中に解決のインデックスを作ることを期待したいと思います。

結びになりますが、日の出町の限りない発展と、議員各位のご活躍、町民の皆様のご多幸、ご健勝、職員の奮闘を心から祈念して、私の施政方針といたします。

平成23年3月3日

日の出町長 橋本聖二